

1. 定期支援

① 支援開始後 3 年以上経過している学校

サルム・ジャネ小学校に 40,000 円
サーバシ・チャム小学校に 40,000 円
ンジャゴ第一小学校に 40,000 円
クール・マジヤベル小学校に 40,000 円
ンジャウ・マリック小学校に 40,000 円
バンブガール・マサンバ小学校に 40,000 円
ンガディ・ナウデ小学校に 40,000 円
ンガディ・オルディ小学校に 40,000 円
サルム・ジャネ中学校に 80,000 円
ジム・モマール・ゲイ中学校に 80,000 円
サーバシ・チャムアラブ学校に 20,000 円

② 支援開始 2 年目の学校

ンジャゴ第二小学校に 50,000 円
ンジャゴアラブ学校に 30,000 円

2. 障がい児支援

ユネスコクラブ（クール・マジヤベル聾啞学校）に 50,000 円

3. 施設整備・自立支援

① クール・アラサネ・ジャロ小学校の鶏小屋計画に 100,000 円

ディウフ会長が中学校時代を過ごしたフンジュン県にある小学校。

創立から間もない小さい小学校ですが、先生方が学校運営にたいへん意欲的で、小学校課程修了試験、中学校入学試験とも優秀な成績をおさめています。

2017 年度に学校運営自立のための鶏小屋計画を支援する予定でしたが、学校側からの要望でトイレ新設を優先することになり、100,000 円を送金。今年度、鶏小屋計画へ再度、支援の要請があったため、100,000 円を贈りました。

② タタ・ロッヒンボウ保育園に開設支援として 70,000 円

ソコンは、セネガルの南西部にある大きな町で、人口は約 12,000 人、主な産業は農業と漁業です。ディウフ会長は、小学校時代をこの町で過ごしました。

タタ・ロッヒンボウ保育園は、この町に 2017 年 11 月に創設された私立保育園です。＜タタ・ロッヒンボウ＞とは＜ロッヒンボウおばさん＞という意味で、ソコン出身の教育者で後に政治家にもなったロッヒンボウ (Rokhy Mbow) 女史 (2016 年逝去) にちなんで名づけられました。

一か月 3,000Fcfa (約 550 円) の保育料がかかりますが、最近ソコンのような地方の町でも外で働く女性が増えているので、保育の需要が大きく、母親たちから大変喜ばれているそうです。

開設当初は 33 人、現在は 60 人の子どもたちが在籍していますが、ゆくゆくは、1 歳半から 6 歳まで、年齢に応じた 4 つのクラスを作る計画です。

開設したとはいえ、子どもたちの遊具や事務用品など、多くのものが不足している状態なので、開設支援として 70,000 円を贈りました。

この支援金で、木馬などの遊具、お絵描きの道具や絵本、プリンターを購入できた、という報告が届きました。



左： 上の写真がロッヒンボウ女史です。

下左：おばけのバーバパパ型木馬で遊ぶ子ども

下中：お絵描きをする子どもたち

下右：絵本を読む子どもたち



③ ゴディバ・フランコアラブ学校に図書費として 40,000 円

2018 年度の支援計画では、2010 年より支援してきた障がい児を支援する会（ジャロさんグループ）に 40,000 円を贈ることになっていました。ところが、再三の請求にもかかわらず 2017 年度の報告が送られてこなかったため、支援を終了しました。

その 40,000 円を図書費として贈ったゴディバ・フランコアラブ学校は、ディウフ会長が 2013 年のセネガル訪問時に紹介され、視察したイスラム系学校です。ディウフ会長の知人一家がお祖父さんの代から運営してきた歴史ある アラブ学校が、フランコアラブ学校に発展したもので、セネガル政府から優良なイスラム学校ということで認定されました。現在、5 歳から 15 歳まで、380 名の子どもたちが在籍しています。

バオバブの会は、2014 年度に、ベンチ付き長机 40 個とトイレ 3 基の新設資金を贈りました。トイレ建設は、学校側の施設計画の関係で延期になっていましたが、現在、工事が始まりました。

↓ 建設中のトイレ

↓ 教室で本を掲げて

↓ 教室で本を掲げて



← 授業風景

↓ 校庭で

↓ 校舎の前で

